元気新聞

08.6.No.133
発行 市岡昭夫
責任 0883-88-5292

元気に育つ イヤギボウシ

落合小学校の子供たちが中心になって、栽培し、あっちこっちにイヤギボウシが見かけるようになりました。

今年も、もうすぐ咲きそうです。

昨年、落合小学校の子供たちと、池田高校祖谷分校に努めていた奥田先生が中心になって、かつてイヤギボウシの群生していた場所に、イヤギボウシの苗を植え、群生地再生に向けてスタートしました。

五月上旬、その場所に行って見れば、イヤギボウシが元気に小さな葉を出していました。9割は苗が元気でしたが、一本も見られませんでした。

もしかしたら鹿に食べられたかもしれません。

かつての群生地は、今は杉林になっていて、もう少し陽差しがあれば確かに増えていくはずです。

杉林の中にも、自生のイヤギボウシが見られることで、希望がもてます。

祖谷の宝として、ぜひ群生地の再生が実現するように、落合小学校の子供たちと協力していきましょう。

なお、イヤギボウシの苗が欲しい人は連絡下さい。

「祖谷川の新緑」

五月は、天候が不順で、剣山では二回も氷が降りました。

それでも、アサギマダラが優雅に飛んでいたり、アカショウビンの鳴き声も聞こえてきました。

気温が高い日には、トンボも気持よさそうに飛んでいるのを見かけました。

六月に入って、あっちこっちでウツギの白い花がみられます。タニウツギの赤も少なくありません。たまには、ピンクの花のウツギも見かけました。花好きには、とってもいい季節です。

新緑も今が旬。雨後の山々は実にきれい!!

『三年目の祖谷村』

開村三年目に入っている活新祖谷村。今が重要な時にきているようです。

それは、第一に組織として、確かなものにしていく為に、活動それぞれに責任体制を整える事が大切になっています。これまでの組織のように、「なんでも村長」では、立ちゆきもなければ足腰も強くなりません。

一人一人の自覚と行動が必要です。

そして、「税金」についても決めていく必要があります。通信費など、財政的確立もきちんとしていかなければいけません。

第二に、元気印の頑のとりくみを広めて、くゆで、地域でのささえあい「助け合い」のより充実に内容にし、安心して暮らせるようなサポートが求められています。

7月定例会(七月台)にむけて、村民の皆さんのご意見、提案をよろしくお願い致します。どんな小さな取り組みでも続けていけば都は開けられます。そして開くのは村民一人ひとりです!!

「奥祖谷二重かずら橋(女橋)」